



広報

ウシウ

平成12年

開基100年
記念号

No. 349



利尻町 2世紀への船出



お も な 内 容	2	………	利尻町開基100年記念にあたって
	3	………	開基100年記念式典挙行 2世紀へ はばたけ夢の浮島 利尻町
	4～8	…	永年の功績を讃えて 開基100年記念功労者表彰
	9～10	…	開基100年記念事業寄附・祝儀一覧
	11	………	開基100年記念祝賀会
	12～15	…	開基100年記念事業
	16	………	町民憲章・利尻町讃歌

利尻町開基一〇〇〇年記念にあたって(式辞)

利尻町長 田島 順 逸



利尻町は、明治三十二年七月杳形村、翌三十三年七月仙法志村に、行政の府としての戸長役場が設けられ、明治三十五年四月には両村とも、北海道第二級町村制を施行、その後、杳形村は大正十三年四月、一級町村制を実施し、昭和二十四年十一月、町制施行を経て、昭和三十一年九月十五日、杳形町と仙法志村が合併し、ここに利尻町が誕生し、今日に至ったところであります。

そして、本年は輝く歴史を秘めて、記念すべき開基一〇〇年を迎えました。

ここに遠くは、本州各地から移住し、日本海北部の厳しい荒波と闘いながら漁場を開発し、厳寒未踏の大地に開拓の斧をふるい、風雪に耐え、また不便な生活にも耐えながら、あらゆる困難を乗り越え、今日の郷土を切り開いてきた

先人諸賢の不撓不屈の精神と功績に対し、深甚なる敬意と感謝の誠を捧げます。

この一世紀の間、私達の先人、先輩諸氏が築き上げてきた町づくりは、産業、交通、教育等の環境整備の進展により、めざましい発展を遂げてくださいました。特に、鯨の千石場所として漁業が栄え、明治三十三年に杳形、仙法志両漁業組合が設立され、漁業を推進したのが今日の基幹産業の根幹をなしております。

その後、盛衰を繰り返しながら、栄華を極めた鯨漁も、昭和三十一年頃を最後に消え

去りましたが、これを契機に港湾、漁港、道路など地域を支える基盤整備と基幹産業である水産業については、これまで天然資源のみの獲る漁業から、コンブ、ウニ、アワビ、ヒラメ等、養殖や人工種苗生産、育成、放流等、肥培管理の栽培漁業への転換を図り、積極的な振興対策を進めて参りました。

また、三たびの大火に遭遇するも、特に昭和三十九年五月、杳形市街地二百三十六戸の住宅が焼失する未曾有の大火に見舞われましたが、町民の持ち前のフロンティア精神と忍耐力、そして団結力を發揮、復興に立ち上がり困難を克服し、見事今日の利尻町の礎を築いたのであります。

更にまた、昭和四十九年には島民あげての悲願であった利尻礼文サロベツ国立公園の指定を受け、以来定期カーフェリーの大型化と高速化等、航路の充実と相まち「夢の浮島」及び「最北離島の旅」といったキャッチフレーズと、

海の名山利尻富士が、「日本百名山」のトップに紹介されたのを機に、特に近年登山客や観光客の脚光を浴びております。

町づくりの一步をこの地に記して以来、明治、大正、昭和の戦時戦後の激動期を経て、意義ある一〇〇年を迎えた本年(平成十一年)、本町は明日への飛躍を念頭し、「町民憲章」に沿って、第四次利尻町総合振興計画を策定いたしました。

又折しも、この六月から利尻空港が島民待望のジェット化が実現でき、地域振興や経済の活性化に無限の可能性が秘められているもので、大いに今後期待されるところであります。

私は、二十一世紀を目前に控え、少子高齢化の進行、情報化、国際化の進展及び価値観の多様化等、急激に変貌する社会環境の中で、豊かな郷土建設に誇りを持ち、この町に住んで良かったと実感できるように創造的で「未来に誇

れるまちづくり」をめざし町民のたゆまぬ努力と英知を結集し、産業基盤の一層の安定強化、住民の福祉医療、生活環境整備、教育文化の向上を図り、生き生きとした心ふれあう町づくりのため、総力を挙げて取り組む決意であります。

尚、各功労者として顕彰された皆様のご苦勞、ご功績に対し、深く感謝の意を表しますと共に、一年余りに亘り、本記念事業及び式典の企画立案等に何かとご尽力いただきました記念事業企画推進委員会並びに実行委員会の皆様にも感謝申し上げます。

どうか皆様、この佳き日を契機とされ、利尻町が更に発展されるよう、一層のご理解とご協力そしてご指導をお願い申し上げます。

最後に、皆様の益々のご発展と、限りないご多幸、ご健勝を心からお祈り申し上げます。

開基100年記念式典挙行

2世紀へ ははたけ夢の浮島 利尻町



利尻町開基一〇〇年記念式典は、平成十一年八月二十七日午前十時三十分より利尻町立杵形小学校体育館において、町内外の関係者約四百名の方々が出席して挙行され、開基一〇〇年の輝かしい歴史を祝うと同時に、本町の二世紀へ向かっての更なる躍進を誓い合いました。

又、当日朝の大雨も一瞬にして晴天に変わり、一〇〇年の歴史を祝うにふさわしい絶好の日和となりました。

式典は、利尻町の今昔をビデオ上映した後、笹原喜一利尻町助役の開式のことばで始まり、道警音楽隊の演奏に合わせ国歌斉唱の後、先輩諸氏の偉業を讃え、その労苦に対し感謝するため黙とうを捧げました。

次に田島順逸利尻町長が式辞を述べた後、町の発展に大きく貢献された元利尻町長保野力雄氏をはじめ叙勲受章者、高野額寄附者など計二十一名が感謝状を、自治功労者利尻町議会議員吉田欽哉氏ら八部門の功労者三百五十四名が表彰を受けられました。

続いて、来賓の北海道知事（代理真田北海道副知事）、衆議院議員金田英行氏、宗谷町村会長（代理中島礼文町長）、大谷宗谷町村議長会長より祝辞をいただき、祝電が披露された後、杵形・仙法志中学校の生徒により開基一〇〇年を記念して作られた讃歌「未来に向かって」が両校生徒全員によって合唱されました。

その後、町民を代表して高橋哲也氏、工藤雄介氏、伊藤淳子氏、柴田祝子氏が二世紀への誓いを宣言し、惣万優利尻町議会議長が謝辞を述べ、佐々木捷昭利尻町収入役の閉式のことばをもって、開基一〇〇年の記念すべき式典が盛会のうちに終了しました。



利尻町 2世紀宣言

海の名山 利尻富士の頂に 花は開き
 水は森をつたい 豊かな海へ
 荒波へ向かい 共に支え合い 慈しみ
 自然の恵みと お互いを宝に
 歩んできた100年
 その誇りを胸に 今
 地球にたった一つの この島から
 利尻を愛するすべての人と 夢をつなぎ
 未来に誇れる 町づくりをめざして
 2世紀へと船出することを誓います

永年の功績を讃えて

8月27日記念式典で表彰

開基一〇〇年記念 功 勞 者 表 彰

開基一〇〇年を記念して、町政の振興発展に寄与されました二十一名の方に感謝状及び記念品が贈られました。
また、自治、産業、社会福祉、保健衛生、教育文化、防災、開拓、災害救助の各分野において郷土の発展に貢献されました三百五十四名の方々が表彰を受けられ、永年の功績を讃えられました。



【感謝状】

(敬称略、順不同)

元利尻町長

保野力雄

前利尻町長

糸谷克明

叙勲受章者

(故)石倉寅夫

(故)牧野吉太郎

(故)加藤孝三郎

(故)三輪博三郎

(故)大腰金治郎

(故)不破金治郎

(故)関根直太郎

(故)濱岸正

高額寄附者

利尻電業株式会社

株式会社 中田組

坂本建設株式会社

利札資材株式会社

宮西東洋雄

小倉高德

工藤賢司

糸谷克明

加藤孝三郎

(故)惣藤

(故)江藤透市

表彰状

(敬称及び現職・前職・元職略、順不同)

自治功労者

◎議会議員

吉田 大窪 松欽哉
 不破 崎竹 保夫
 原 藤 孝三郎
 加 濱 岸 正
 (故)岡 田 一雄
 (故)大 腰 金治郎



◎農業委員会委員

西島 高島 光松雄
 (故)谷 町 村 口 稔夫
 岡 山 幸 司
 越 智 幸 司
 岩 島 秀 夫

◎統計調査員

永井 昭三
 干場 勝二
 森原 良一
 (故)小 島 直次郎
 阿 部 清

星 田 盛
 脇 川 勤次郎
 川 端 孝之
 出 所 増三
 宮 下 昭一
 宮 崎 安太郎
 水 卷 千代太郎
 山 本 秀雄
 茶 谷 正義

宮 下 昭一
 安 井 恵一
 斎 藤 政一
 岩 島 榮吉
 鈴 枝 刀一
 柴 田 義勝
 藤 田 武利
 佐 藤 吉實

◎収入役

津 田 博

◎人権擁護委員・行政相談委員

堀 川 互

◎納税貯蓄組合長

横 野 進

◎収入役・教育長

白 幡 昭三

◎港湾漁港審議会委員

米 田 三郎

◎交通安全指導員

伊 藤 育雄
 松 野 啓満
 加 藤 啓治
 澤 谷 澤治郎
 田 中 藤吉
 佐 藤 武利

◎教育長

五十嵐 国夫

◎監査委員

平 田 寛

◎選挙管理委員会委員

谷 永 榮一
 中 原 日出城
 杉 田 正一
 木 村 正一

◎自治会長

脇 谷 義治
 寺 崎 政美
 濱 口 正孝
 柏 窪 正夫
 大 窪 松夫
 菅 原 秀夫
 町 村 幸司
 神 田 克司
 米 田 三郎

◎沓形交通安全協会会長

大 門 武雄

星 田 盛
 脇 川 勤次郎
 川 端 孝之
 出 所 増三
 宮 下 昭一
 宮 崎 安太郎
 水 卷 千代太郎
 山 本 秀雄
 茶 谷 正義
 横 野 進
 磯 崎 武進
 田 尻 忠司
 成 田 英治
 濱 岸 清三
 濱 口 清勝
 鈴木 日出博
 鈴 木 日出博
 藤 井 幸三郎
 藤 井 幸三郎
 三 浦 正夫
 佐 々 木 實夫
 磯 野 明
 中 原 日出城
 大 友 和夫
 福 田 順一
 (故)菊 池 清七
 志 摩 清進
 針 金 順五郎
 坂 江 清一郎
 田 中 清一郎
 高 橋 了郎
 高 橋 了郎
 藤 田 武利
 浜 田 照榮
 野 村 照榮
 鈴 木 実
 大 門 武雄

産業功労者

(故) 竹澤三成 米高中茶名
 嶋谷 盃田 田島原谷達
 公清良英三光日出正義藏
 一一勝治郎夫城



社会福祉功労者

(故) 宮崎福菊 齋石
 (故) 下峨原地田中藤岡
 茂保勇 昭
 太郎 治 弘 正 三 孝
 郎 郎 夫 正 弘 正 三 孝

民生児童委員

益菊戸三川濱小工成
 田池部浦端口柳藤田
 久キ勝敬孝 和良和
 ク 子 子 之 孝 雄 子 子
 子 エ 子 子 之 孝 雄 子 子

保健衛生功労者

(故) 三土濱小成中菅佐
 輪田岸坂田原原藤健
 博義 喜和眞 健
 久男正一子子馨三
 ◎国民健康保険運営協議会委員



◎医師

(故) 三孫
 輪 泰
 博 久 一

◎針灸・マッサージ師

佐藤 善次郎

◎助産婦

(故) 金牧
 澤野 八重子
 テ イ

教育文化功労者

◎教育委員会委員

(故) 石工 藤 眞
 倉 寅 夫 眞

◎社会教育委員

高砂志 摩 眞
 島田京 進
 ミッ子子

◎博物館運営協議会委員

金田 幹 男

◎体育指導委員

寺嶋 秀 明
 佐藤 健 三
 長谷川 昌 央

◎文化協会

工藤 眞
 清水 章 延
 金田 幹 男
 谷永 榮 一
 津田 和 子



◎消防団員

濱 三
口 上
孝 一 男

防 災 功 勞 者



◎漁協婦人部

木 村
カ
ヅ
エ

成 田 和 子
砂 田 京 子
大 澤 ハツ エ

◎婦人団体連絡協議会

高 新 齊 敦 吉 嶋 喜 寺 小 松 三 柴 伊 脇 寺 牧 酒 高 菊 高 田 門 高 大 北 小 宮
 島 濱 藤 賀 岡 野 多 下 林 原 浦 田 東 谷 田 野 井 杉 地 田 中 田 橋 友 村 柳 道
 幸 秀 辰 裕 一 勝 敏 光 龍 勝 義 信 幹 正 貞 一 俊 和 信 和 義
 一 一 德 勉 二 輝 亮 美 男 男 二 潔 利 治 行 男 章 義 敏 實 男 一 貢 夫 之 雄 昭
 五 松 田 八 長 角 齋 藤 川 田 宮 金 中 平 河 小 鈴 大 大 小 川 佐 本 東 星 伊 滝
 老 野 中 講 田 谷 藤 田 端 尻 下 田 山 野 野 柳 木 窪 窪 島 端 藤 間 海 田 藤 沢
 昌 正 尋 重 武 孝 忠 昭 幹 勝 耕 伸 一 國 和 利 和 敏
 實 滿 正 一 美 信 翠 利 之 司 一 男 夫 造 也 助 雄 男 實 慧 明 勉 二 豊 彦 嘉 薫
 高 干 高 澤 玉 野 津 池 五 原 田 中 古 小 草 寺 小 鈴 峨 三 牧 田 菅 佐 西 長 杉
 杉 場 杉 田 谷 村 田 原 嵐 崎 鍋 村 屋 坂 間 崎 杉 木 家 盃 野 原 原 藤 島 川 浦
 勝 誠 和 時 芳 鉄 喜 時 政 勝 日 重 明 昭 秀 利 勝
 清 二 勇 一 隆 勳 夫 恆 雄 保 一 也 保 一 良 美 美 博 滿 雄 男 郎 夫 勉 松 美 優
 (故) (故) (故) (故)
 柏 西 牧 大 大 花 畠 八 濱 工 浜 澤 高 田 竹 佐 澤 上 澤 森 北 柴 成 藤 石 柳 池
 原 島 野 島 窪 田 山 講 田 藤 田 木 寺 中 島 藤 田 木 田 本 辻 田 田 井 垣 谷 端
 正 勇 隆 松 勝 敬 將 幸 照 富 幸 武 光 定 登 佳 末 昭 富 敏 忠 重
 明 道 治 一 夫 利 郎 清 志 雄 榮 弘 夫 男 美 雄 雄 夫 治 幸 松 男 夫 幸 榮 男 一

◎水難救難所員

(故) 佐藤 成野 伴田 横梅 小石 大大 磯 檀 中 杉 木 保 蔦 赤 加 田 岡 夏 川 佐
 藤 田 本 端 山 岡 柳 塚 島 山 江 山 島 田 村 田 森 坂 藤 中 田 井 合 藤
 清 昭 静 修 利 力 喜 力 浩 光 秀 志 清 博 忠 善 勝 正 良 一 藤 清 佐
 治 賢 二 雄 次 彦 郎 助 雄 一 雄 春 年 美 邦 男 郎 勝 昭 美 一 雄 七 一 吉



安 和 田 齋 田 岩 村 江 澤 佐 山 町 工 畑
 達 島 澤 藤 澤 島 谷 戸 谷 木 下 村 藤 官
 光 嘉 政 昭 邦 榮 壽 澤 敏 芳
 夫 利 雄 三 夫 吉 夫 弘 郎 實 雄 一 勉 公

開拓功勞者

坂 柳 畑 宮 佐 大 佐 石 谷 石 矢 酒 佐 館 欠 根 山 高 藤 上 本 米 稻 齊
 本 谷 中 下 藤 島 木 塚 永 塚 田 井 藤 崎 上 本 松 井 山 堂 田 澤 藤
 ト ア キ キ 美 ス 悉 チ ツ ナ 志 セ み 與 ハ 春 隆 和 信 則 良 政 次
 ミ 子 ノ ミ 津 キ 郎 ヨ ル ツ 茂 ツ わ 一 ナ 雄 夫 彦 幸 義 一 郎 裕 雄

柴 大 吉 富 石 谷 前 柴 鎌 三 高 張 大 藤 嶋 三 藤 川 三 洞 池 堀 関 前 五 田 杉
 田 山 田 檉 垣 永 田 田 田 上 田 間 門 田 野 影 田 端 村 口 端 川 田 嵐 中 本
 善 チ ミ 武 セ ト つ 德 タ ナ 義 榮 武 長 正 又 義 さ ト タ キ シ サ キ ト 金 ヨ
 五 ヨ エ 雄 ナ メ た 藏 ノ カ 雄 郎 雄 利 一 郎 彦 江 ワ カ ヨ ナ イ ヨ エ 作 シ

災害救助功勞

沓形漁業協同組合
 仙法志漁業協同組合
 沓形水難救難所
 仙法志水難救難所



佐 大 竹 磯 山
 々 門 林 江 中
 木 門 林 江 中
 ミ キ キ キ ユ
 ヨ ヨ ワ ワ ミ

開基 100 年記念祝賀会

盛会のうちに終る

開基一〇〇年記念祝賀会は、八月二十七日利尻町民センターにおいて、記念式典終了後引き続き開催されました。祝賀会は、利尻海鳴り太鼓保存会によるオープニングで始まり、田島町長のあいさつのもと真田北海道副知事をはじめ来賓者・町内各団体の方々十四名によって鏡開きを行いました。

続いて安達利尻富士町長の乾杯の音頭で祝宴に入り、アトラクションでは、コーラス島の音が「島を愛する」等の合唱を披露、次いでNTTDコモが『ふるさとテレビ電話』により仙法志字本町の砂田京子さん家族を利尻町へ愛媛県を結び紹介した後、次いで利尻町練沖揚音頭保存会が鯨漁で華やかであったころの漁場の様子を再現するなど熱演が展開され、また町内料飲店関係者が手造り料理等により華を添えてくださいました。

望郷の思いで出席された方々始め多くの出席者を魅了した会場は、祝賀の喜びと熱気に溢れ、中島礼文町長の発声による万歳三唱は、いつまでも会場をこだましていました。



町民みんなで創りだす 二世紀への第一歩

開基100年記念事業



●桜公園造成事業

●地域のみどり環境整備事業

五月二十九日、三十日、六月六日の三日間にわたり、町民延べ三百五十人が参加し、杵形・仙法志両地区に植樹を行いました。

●ウィーン・シューベルト

●合唱団コンサート

コンサートは七月二十日町民センターに約四百人の町民が集って開催されました。会場は、ため息、歓声、拍手が互いに繰り返され、世界のハーモニーに酔いしれました。



●全日本男子バレーボール

●紅白試合

七月二十四日に利尻町総合体育館「夢交流館」で約千二百名の観衆が集まり行われました。翌日には、小・中学生、高校生を対象にバレーボール教室なども開催されました。



●一〇〇イニング

●ソフトボール大会

七月三十一日午後二時から競技が開始され、一〇〇イニングを目指しましたが、悪天候のため翌日午前〇時一五分、六十五回で競技は終了となりました。



●日本丸寄港

八月六日から九日まで、運輸省航海練習船「日本丸」が寄港し、町内小学生を中心に三百数十人が体験乗船しました。



●ポリシヨイサーカス

八月七日、八日の二日間、利尻町総合体育館「夢交流館」において、ロシア国立のサーカスが行列、空中ブランコや動物のシヨイなどでたくさんのご家族が楽しみました。



●花火大会

八月八日杵形港、八月十五日仙法志港において実施された花火大会は、町内外及び大勢の観光客を集め、夏の夜空のキャンパスを描く一瞬のクレパスに堪能しました。



●サハリン視察交流

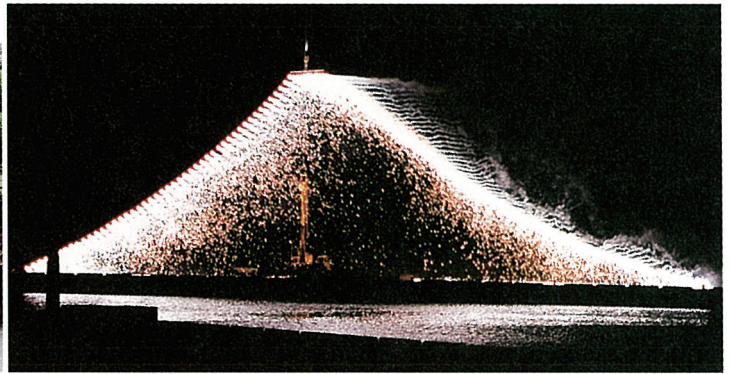
八月十三日から十九日までの日程で、サハリン州エジノサハリンスク市において利尻町中学三年生三十二名、引率七名でスポーツ、文化、自然交流を通して国際的な見聞を広げ、又、自分達の郷土を再確認することができました。



●水産まつり

●町民カラオケ大会

八月二十一日杵形市街地を会場に開催し、地場産品を使った郷土料理など三十数品目が提供され、大盛況でした。
また、町民カラオケ大会も開催され、二十五名ほど出場者があり、美声を競い合いました。





●道警音楽隊カラーガード隊
 市中パレード
 八月二十六日、二十七日と北海道警察音楽隊カラーガード隊四十七名が来町し、市中パレード、式典演奏、演奏会、ステージドリルなど披露し、たくさんの方から声援を受けていました。



●歌謡ショー
 HBCラジオ公開録音「夢の浮島演歌まつり」は、北海道職員互助会のご支援を得て歌手の鳥羽一郎、岸千恵子さんらによる「演歌の競演」が八月二十九日総合体育館夢交流館で華やかに行われました。



●健康講演会
 九月十八日にテレビ番組「笑点」の司会などで活躍中の落語家三遊亭円楽氏を招き「健やかに、心豊かに生きる知恵」と題して、人生経験の中で健康の大切さなどを話され、意義ある講演会でした。



●市町村対抗野球
 九月十一日、十二日に利尻町運動公園野球場で行われ、優勝稚内市、準優勝利尻富士町、利尻町は残念ながら準決勝で敗退しました。

●NHKラジオ

「民謡をたずねて」

九月十九日利尻町民センターにおいてNHKラジオの公開録音が実施されました。
鎌田英一さんはじめ当代一流の民謡歌手による潮の香りたっぷりのステージは、場内満員の観客を魅了しました。



●子供議会

十一月八日・九日、議会議場において、町内小学生・中学生による模擬議会を開催し、小学生・中学生各十四名が出席して様々な意見が出ました。



●時雨音羽生誕一〇〇年祭

十一月二十日利尻町民センターにおいて、大勢の町民の前で、コーラス島の音、鳥っ子合唱団が時雨音羽氏作詞の出船の港、君恋し、小中学校校歌などを歌い盛り上がったコンサートとなりました。



●自治会対抗

パークゴルフ大会

八月十四日、利尻町運動公園パークゴルフ場で二十三自治会百三十八名の参加で行われ、日出町第一自治会が優勝しました。



＝その他事業、協賛事業＝

- 写真展
- 花一杯運動
- 観光写真コンクール
- 利尻浮島まつり
- 自治会対抗綱引、玉入大会
- すこやかマラソン大会
- 健康まつり
- 町民芸能祭

利尻町民憲章

わたくしたちは、秀麗たぐいなき利尻富士がそびえ、礼文島を対岸に望むわが国最北端の利尻町民であります。

わたくしたちは、このうつくしく、きびしい自然のなかで豊かな、住みよい町をつくることに、ほこりと責任を感じて、この憲章をきめます。

- 一、元気で働き、豊かな産業のまちをつくりましょう。
- 一、きまいを守り、明るく住みよいまちをつくりましょう。
- 一、文化を高め、平和なまちをつくりましょう。
- 一、自然を愛し、きれいなまちをつくりましょう。
- 一、未来をつくる、子どもものしあわせなまちをつくりましょう。

昭和44年12月20日制定

町章

昭和43年5月1日制定



遠く沖の方から、波の間に見える秀麗利尻山と、最北端のきびしさをあらわし、全体を円形にして町民の「和」を象徴したものです。

町名の由来

利尻とは、アイヌ語の「リイシリ」から来たものです。「リイ」は高い山、「シリ」は島の意で、即ち高い山のあがる島ということです。

町の花・木・鳥

町の花	町の花	町の木	町の鳥
チシマザクラ	エゾカンゾウ	ハイマツ	リシリコマドリ

利尻町讃歌

『未来に向かって』

作詞／杏形・仙法志
 中学校生徒一同
 作曲／岩山純子(教諭)

- 一、はるかな空に つらぬく名山
朝日がゆつくり 顔を出す
豊かな森の 木々たちは
冬をたえ 花咲かす
そんな小さな 浮き島で
強く 強く 生きている

- 二、かがやく海に おたやかな雲
夕日は空を 赤くする
いつまでも夢を 持ち続け
時をこえて 旅をする
そんな小さな 心るさこで
強く 強く 歩いている

- 三、明るく優しい 笑顔がいつぱい
あらゆる歴史が 街つくり
緑が多い この島で
のびのびと 生きている
そんな小さな 島だけど
強く 強く 前向きに

未来に向かって 歩き続ける



広報

りしり

総合振興計画特集号



利尻町はおかげ様で
輝かしい2世紀をむかえることができました。
町民皆様のご協力に感謝申し上げます。

第4次利尻町総合振興計画が策定されました

21世紀の新たな時代に向け“創造的で未来に誇れる町づくりをめざして…”を基本目標として、若者が定住し、すべての町民がこの利尻町に住んでいることに、誇りと喜び、そして生きがいを持てる町づくりを目指して「第4次利尻町総合振興計画」を策定いたしました。

計画の策定に当たりましては「町民アンケート調査」や「自治会懇談会」を行いながら町民参加による計画づくりに努めてまいりました。また、原案の作成には利尻町総合振興計画策定委員会及び策定プロジェクトチームにおいて熱心に検討を重ねていただき、利尻町総合振興計画審議会のご審議と町議会の議決を経るなど、町民はじめ関係者皆様の英知と総力を結集し策定したものであります。

貴重なご意見、ご提言をいただきました町民の皆様、ご審議賜りました審議会委員、町議会議員の皆様にご心から感謝を申し上げます。

【第4次利尻町総合振興計画の主な策定経過】

開催年月日	内 容
平成9年9月22日	第1回策定委員会
平成9年10月14日	係長会議
平成9年12月29日	第2回策定委員会
平成10年1月8日	係長会議
平成10年1月14日	住民アンケート調査配布（全世帯）
平成10年1月19日	自治会懇談会実施（1/19～4/17）
平成10年1月21日	第3次総合振興計画評価表配布・検討
平成10年2月6日	職員会議
平成10年2月9日	町内団体アンケート調査配布
平成10年2月20日	住民アンケート調査回収
平成10年2月28日	町内団体アンケート調査回収
平成10年5月6日	第3回策定委員会
平成10年5月15日	地域づくりシート配布（全職員）
平成10年8月31日	地域づくりシート回収
平成10年11月12日	利尻町総合振興計画審議会（全体会議）
平成10年12月24日	理事者ヒアリング（水産課）
平成10年12月26日	“ “ （建設課、消防、碎石、病院、ホテル）
平成10年12月27日	“ “ （商工課、教育委員会）
平成10年12月28日	“ “ （民生課、総務課）
平成11年1月8日	利尻町総合振興計画審議会（第1回総務教育部会）
平成11年1月9日	“ “ （第1回保健福祉医療部会）
平成11年1月10日	“ “ （第1回産業建設部会）
平成11年2月9日	利尻町総合振興計画審議会（第2回総務教育部会）
平成11年2月10日	“ “ （第2回保健福祉医療部会）
平成11年2月12日	“ “ （第2回産業建設部会）
平成11年2月28日	利尻町総合振興計画審議会（全体会議）答申
平成11年3月9日	利尻町議会において議決

まちづくり施策の大綱

第1章 豊かな自然を生かした うるおいのふるさとづくり

(1) 土地利用

町民ニーズの変化による国土開発等と自然保護や環境保全との調和を図りながら長期的展望に立った総合的かつ計画的な土地利用を図るため「利尻町土地利用基本計画」を策定し、地域の特性を活かした秩序と計画性のある土地利用を推進します。

体となつて景観保全に努めます。

(2) 公園

児童公園や町民のふれあいと保健、休養の場として各種公園の適切な維持管理と整備に努めるとともに、日常生活の中で一人ひとりが緑化や町をきれいにする運動を進め、住民参加によるまちづくりを推進します。

(3) 景観保全

恵まれた自然や風景、町並み、美しい漁村景観、文化遺産等を保全し、それらの景観を損うことのないよう地域住民と行政が一

(4) 道路

車輦の大型化や交通量の増加に伴い、道路の拡幅や歩行者保護のための歩道の整備及び道路周辺環境の緑化対策が求められており、計画的整備に努めます。また、幹線道路である道々の整備についても、交通安全の確保を含め人中心の道路整備を基本にした計画的な整備促進を要望していくとともに、冬期間における交通確保のため除雪体制の強化に努めます。

(5) 住宅・宅地

公営住宅は、近年入居者のニーズが量から質の向上へと変わってきており、さらには長寿社会にも対応できるよう高齢者や福祉に配慮した住宅、定住化を促すための需用動向等を踏まえた単身向住宅の建設に努めると

ともに、老朽化した住宅の計画的な建替えを促進します。

一般住宅についても高齢者や福祉に配慮した住宅改造への支援を図るとともに適正な建築指導や相談体制を充実し、寒冷地及び北方型住宅など自然条件や環境に適した住宅建設の促進に努めます。

宅地は、定住化を図るため需用動向に応じた良質で低廉な宅地の供給を積極的に行うため、遊休宅地の有効利用と適正な団地造成の推進に努めます。

(6) 交通機関

島民の生活航路としての海上交通は産業、経済や観光振興のうえからも重要であり、安全かつ高速化の整備要望とともに航路の維持の確保に努めます。

また、陸上交通については、過疎化や少子化、並びに自家用車等の普及により、バス利用客が減少傾向にあるが、地域の公共の足として今後も維持確保のための支援に努めます。さらに空路については、平成11年に利尻空港のジェット化が予定され

ており観光面や基幹産業である漁業にとつても大きなメリットが期待されており、受け入れ体制の整備と活用対策に努めます。

(7) 情報・通信

地域社会に大きな影響を与えると見込まれる情報化の進展に対応するため、広域情報ネットワークの整備推進と地域情報の集積など地域における情報生産、発信能力の向上に努めます。

また、技術の急速な進歩に対しては、民間の努力だけでなく行政も積極的に支援し、施設の整備や生涯学習での技術教育の推進に努めます。



(8) 地域エネルギー・水資源

国際的に地球温暖化などの環境問題解決に向けた積極的な取

り組みがもたられている今日、豊かな自然を財産として地域産業の振興を図る本町にとつてもこれらの課題解決のための対応は重要な問題であり、石油に依存している本島の現状から、今後は風力などの地域エネルギーや、太陽光、熱などの再生可能エネルギー(自然エネルギー)などの有効活用について、調査・研究・開発を積極的に進めます。

(9) 簡易水道

水は、住民生活に欠かすことのできない貴重な資源であり、生活様式の多様化や下水道の普及等により、今後さらに水の需用が増加することが予想されることから、住民が安心して利用できる、かつ安定的に供給できる施設の整備が必要であり、計画的な施設の改修、計装機器等の更新、補修を行い、水需要の安定供給に努めます。

(10) 下水道

快適な生活環境の向上や公共水域の水質の保全はもとより、地域産業の振興や地域イメージのアップと定住促進やUターン・イターンの受け入れ等の観点からも下水道整備は欠くことのできない大きな課題であり、地域住民の理解と協力を得ながら計画的に整備を進めます。

(11) 治山・治水

本町は、急傾斜地を背後に抱えた住宅も多く、山腹崩壊などの自然災害の危険性を常に有していることから、国や道との連携を図り、地域住民をはじめ関係機関の協力を得ながら危険箇所への解消に努めます。

(12) 河・砂防

本町の河川のほとんどが小川であり、平常時の流水はないが、豪雨時や融雪時には異常出水などにより水産資源などへも被害を与えることがあることから、国・道との連携を図り、年次計画的な土砂の排土事業や損傷の谷止工、護岸工の改良事業

の継続整備と、危険箇所の調査・把握とその対策に努めます。

(13) 海岸保全

日本海の厳しい気象条件の中で、高波や激波による海岸浸食が激しく、時には激波が民家まで襲来することもあることから、国・道と連携を図りながら護岸や離岸堤、消波工等による海岸保全の推進に努めます。

(14) 自然保護

本町の自然は、四季を通じて多彩で変化に富んでおり、美しい自然はかけがえのない郷土の財産です。今後とも自然を守り育て、自然と調和のとれた地域開発を基本とした自然保護対策に努め、町ぐるみでの自然や歴史的遺産等の保護推進を図り、貴重な自然の保護保全と有効活用等の施策を推進します。

第2章

健やかで、ふれあいと安心のふるさとづくり

(1) 保健

社会環境の変化より、保健・医療のニーズが多岐にわたってきていることから、「自分の健康は自分で守る」を基本とし、健康づくり活動の推進や疾病予防のための各種検診、相談・指導等を充実するとともに、関係機関との連携を図り地域保健活動の強化に努めます。

(2) 医療

利尻島国保中央病院は、利尻島の基幹病院として島民の健康保持増進と地域医療の確保に努めており、今後も島内の各診療所との連携を図り、特に各種検査の体制の充実強化と早期治療体制の確立に努めます。

また、今後ますます高齢化が進行し、医療ニーズが複雑多様化する中、長寿社会に向けた包括医療推進のため医療・保健機関との連携により、疾病の早期発見、早期治療に努め、保健予

防活動に積極的に取り組んでまいります。

(3) 地域福祉

社会福祉協議会の機能強化と、社会福祉団体やボランティア団体活動の育成・支援に努めるとともに、家庭や地域社会において、人と人との社会的つながりと相互扶助が求められており、福祉思想の普及啓発と実践活動を推進するとともに、地域や職場ぐるみでの地域福祉活動の展開に努めます。

また、福祉センター機能充実を図るとともに在宅介護支援センターの有効活用を図ってまいります。

(4) 児童福祉

次代を担う子供達を心身ともに健やかに育成するために、家庭・地域・学校・行政などが連携して、地域子ども会の育成や遊び場確保、児童館等の整備

検討など良好な環境づくりに努めるとともに、多様化する保育ニーズに対応するための諸施策や保護者のニーズに添った保育サービスの充実についても検討してまいります。

(5) 高齢者福祉

長寿社会の到来に対応するため、健康づくりや健康管理に対する自覚と意識の高揚を図るとともに文化・スポーツ・レクリエーションなどを通じた健康づくり活動の強化と、高齢者の経験や能力を生かした地域づくり活動への積極的な参加を促すなど、高齢者の生きがい対策の充実に努めます。

また、住み慣れた地域で在宅高齢者が安心と生き甲斐を持つて暮らせる生活環境の充実などを図るため、在宅福祉サービスの推進に必要なボランティアの積極的な参画・育成と老人福祉寮、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、在宅介護支援センターの有効利用を図るとともに、社会福祉協議会や医療・福祉機関との連携を強化し、

必要な体制づくりに努め、ホームヘルパー事業、デイサービス事業、訪問看護サービス事業、などの各種サービスの充実に努めます。

持った方の自立と社会参加をめざし、その環境づくりと福祉サービスの充実など条件整備に努めます。

止のための口座振替制度の奨励に努めるとともに年金取扱事務の円滑化と窓口での指導、助言の徹底に努めます。

関係機関の連携協力及び道・市町村間の連携協力の促進を図り、介護保険制度の円滑な運営に努めます。

で設立している、利尻郡清掃施設組合を中心に、生活環境保全のためのリサイクル活動の推進と分別収集に努め、処理施設の整備や体制の充実にについても積極的に取り組んでまいります。



(7) 母子(父子)福祉

精神面や経済的な自立を支援するため、就労の機会の拡大や各種援助施策の充実に努めるとともに自主活動組織や団体への積極的な育成支援と相談体制の充実に努めます。

(10) 国民健康保険

長寿社会の到来と疾病構造の変化等により今後ますます医療費の増高が予想されることから国民健康保険制度への理解を高めながら、各種の保険診査の受診率の向上や保健事業による健康相談等の充実に努め、疾病の早期発見・治療や住民の健康づくり活動を積極的に進めるとともに、国民健康保険・老人保健制度の健全な運営に努めます。

(12) 環境衛生

清潔で美しい町づくりのため、町民一人ひとりの意識の高揚を図り、地域ぐるみの美化運動を進めるとともに、ゴミ・し尿処理については利尻富士町と広域

は、施設の計画的な補修や設備の更新など適切な維持管理に努めるとともに、周辺の環境整備についても配慮してまいります。

(6) 障害者福祉

障害の早期発見、早期治療体制の確立のため、指導・相談業務の充実を図るとともに知的障害者施設や身体障害者更正施設など島内外の施設との広域的連携強化を図り、機能回復訓練や生活作業訓練などによる障害を

(9) 国民年金

長寿社会を迎え、高齢者の生活の支えとなっている公的年金制度の役割はますます重要となっており、相談業務・広報活動の充実に努め、年金制度に対する住民の理解を求め、未納者の解消や納付組織の充実と未納防

(11) 介護保険

21世紀の超高齢化社会における介護問題の解決を図るため、国民の共同連帯の理念に基づき社会全体で介護を必要とする仕組みとして本制度が創設され、平成12年度から実施される予定であり、今後は介護保険制度を核とした、総合的な保健医療サービス及び福祉サービスの連携のとれた提供体制整備のため、



第3章 活力に満ちた産業の ふるさとづくり

(13) 交通安全

人命尊重、人間優先を基本とする交通安全対策の充実や交通事故防止のための交通安全施設の整備を図るとともに、交通危険箇所への解消や交通安全意識の普及・啓発、交通安全教育の推進など町民総ぐるみの交通安全運動を展開し、交通事故死ゼロを推進してまいります。

(14) 防災

町民の生命と財産を守るため防災講演会や防災避難訓練を実施し、町民の防災意識の高揚に努めるとともに、防災避難道路や災害用資機材と救援物資の整備を図り、利尻町地域防災計画に基づく防災体制の整備充実に努めます。

(15) 防犯

町民が日常生活を侵害されることなく、安心して生活を営むためには、犯罪の発生を未然に防ぐことが重要であり、特に近年、犯罪は若年化の傾向が見られ、多様な犯罪の発生が考えられることから、学校・家庭・地

域が一体となって関係機関や団体との連携を強め、防犯対策や環境整備に努めるとともに、町ぐるみで犯罪の未然防止と暴力追放に積極的に取り組み、犯罪のない町づくりをめざします。

(16) 公害

公害の発生を未然に防止し、安全で快適な生活環境を確保するため、関係機関との連携を密にし、発生源での監視・指導体制を図り主体的な防止に努めます。

(17) 消防・救急

町民の生命財産を守るため、防火思想の高揚を図るとともに、消防施設の整備や消防資機材、消防体制などの充実に努めます。

救急業務については、高齢化の進行、生活環境の変化により複雑化する傾向にあり、専門的な知識と高度な技術が求められていることから、救急隊員の技術の向上と救急資機材の充実により、迅速な救急体制の整備に努めます。
また、傷病者の症状により、

島外搬送が必要な場合も多いことから、救急ヘリコプター等の稚内常駐を始め、救急医療関係機関のネットワークを強化するとともに、救急搬送に係る施設の整備（救急用ヘリポート）と搬送体制の充実に努めます。



(18) 水難救済

海難事故の未然防止のため、関係機関との連携による海難、水難事故防止と安全意識向上の啓発運動を推進するとともに、救助体制の整備強化に努めます。
また、懸案である救難所員の身分保障制度と処遇改善制度の早期確立についても、積極的に要請活動を展開してまいります。

(1) 漁業

漁業経営の安定を図るため、「つくり育てる漁業」を推進し、増殖場の造成や魚礁、産卵礁設置による漁場の開発、ウニを始めとする種苗放流事業等を実施し資源の増産対策に努めます。
また、漁業に誇りと自信、高度な技術と近代的経営感覚を持つた担い手の育成・確保と後継者の花嫁対策に積極的に取り組むとともに、漁業経営の近代化のための金融支援や新製品の加工・開発、販路の開発・拡大と物流の改善のための支援を行い、沿岸漁業の振興に努めます。



(2) 港湾

杵形港の整備は、国の整備計画により順調に整備が進められてきておりますが、懸案であります船舶の出入港の安全と係留の安全を図るための防波堤や護

岸の整備、大型クルーズ船の入寄港に伴う乗船客上陸のためのテンドーボート接岸岸壁の整備、不足している漁船及び貨物取扱用岸壁の整備、さらには、災害時に対応できる耐震岸壁の整備などについて積極的に要望し、港湾機能のより一層の整備充実を努めます。

(3) 漁港・船揚場

漁港整備は、国の漁港整備計画により順調に整備が進められてきておりますが、各漁港の懸案である漁港機能改善整備計画の早期整備について要望し、積極的な整備促進に努めます。

また、船揚場についても、引き続き計画的な整備を図るとともに、既存施設の適切な維持管理を行い、利用漁船の保全や、漁業操業意欲の向上に努めます。

(4) 商工業

消費者のニーズにあった快適で魅力ある商業・サービス機能を充実させるため、商店街の近代化の促進を図るとともに、販売促進につながる経営の近代化

のための各種制度資金や補助事業の活用を促すなど、商工業の活性化に努めます。

また、商店街の購買力と集客力を高めるため、商工会を中心とした指導・相談体制の強化、経営の近代化、後継者の育成・確保など積極的な取り組みに対する必要な支援に努めます。

さらに、加工業についても、加工技術の向上や販売ルートの確立、地域の特性を生かした高付加価値による新製品の開発等を積極的に支援します。

(5) 観光

本町の特色を生かした滞在型観光を目指し、各種イベントの開催、利尻独自の味覚・特産品の開発など個性的で魅力ある観光地づくりを進め、利用者のニーズに合わせた施設や環境整備を図るとともに、宿泊施設等受入体制の整備促進に努めます。

また、利尻空港ジェット化に対応する体制と路線開発をも図り、通年観光の確立に努めます。

(6) 漁業と商業・観光の連携

基幹産業である漁業の振興と活性化を図るための新たな取り組みとして、漁業と商業・観光との連携を強化し、観光漁業や土産品の開発、水産物の安定供給を図るなど、地域の活性化に努めます。



(7) 農業

本町の農業は、漁業中心の兼業農家がほとんどであり、専業農家の育成は難しい状況にある

ため、農業に対する意識の高揚を図り、町内自給の自家菜園の推進と未利用地の有効活用を努めます。

また、農産加工品の開発と観光と結びつけた体験農業についても検討してまいります。

(8) 林業

森林は、国土の保全、水源かん養等の公益的機能を有し、さらに、豊かな自然は保健休養の場の提供、町民福祉の向上、水産資源の棲息環境に大きく貢献していることから、町民全体の森林保全意識の高揚を図り、長期的な整備計画に基づき適正管理に努めます。

(9) 砕石事業

砕石事業は、地元産業に対する骨材の安定供給とともに、管内の公共事業や産業開発の一端を担っており、社会基盤や生活

基盤整備のうえからも基礎資材である骨材の確保は不可欠であり、今後も計画的な原石の確保、安定的な生産・供給体制の確立及び販路の拡大を図り、長期的

な安定経営に努めます。

(10) ホテル事業

滞在型通年観光をめざす本町にあって、ホテル事業は受入体制整備のうえから重要な役割を担っており、特に平成11年度の利尻空港ジェット化に伴い、観光客の入込みの増加が見込まれていることから、施設の改修整備を図るとともに職員・従業員

の資質の向上を図り、利用客のニーズに合った接客改善とサービスの向上に努め、積極的な宣伝活動による利用客の増加や滞在期間の延長などにより経営の安定に努めます。

(11) 雇用・労働

若年労働者の地元への定着化と高齢者、女性などの雇用機会の拡大を図るため、雇用の場の確保と労働・生活環境の整備充実に努めます。

また、季節労働者においては、経済不況に伴う雇用の場の減少などにより非常に厳しい現状にあるため、雇用の場の確保や相談業務の充実など援護対策の強

化に努めます。

(12) 消費者対策

消費者保護のため、消費生活

相談や各種情報提供などを充実し、消費者意識の高揚を図り、自立する消費者の育成に努めます。

第4章 心豊かな人づくりと創造性に富んだふるさとづくり

(1) 生涯学習

本町の実態に即した地域特色を生かした構想のもとに、町行政機関及びその他関係機関

を図り、心の教育の推進や子育て支援体制の強化を図るなど、きめ細やかな幼児教育の充実向上に努めます。

(3) 学校教育

家庭・学校・職場・地域で行われるすべての学習をとらえ、いつでも・どこでも・だれでも・なんでも自由に組み組める学習社会の確立に努めます。

生涯を通じ学びつづける基礎を培い、豊かな人間性を育む「心の教育」の一層の充実を図り、ふるさと利尻の未来を切り拓いていく能力を備え、心豊かで創造性に富み、国際性豊かな児童生徒の育成を目指し、学校教育環境の整備や教育内容の充実

(2) 幼児教育

幼児期は人間形成の基礎を培う大切な時期であり、「幼児期からの心の教育の在り方」が最も重要とされています。

また、完全学校週5日制の具

このため、家庭における基本的な生活習慣のしつけの見直しや、保育所と学校との連携強化

体化に向けての対応や学校不適應児対策、非行の若年化傾向に対する対応など、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒の

育成にあたり、学校教育の充実と教育環境づくりに努めます。



(4) 社会教育

生涯教育の推進により、すべての町民が生涯各期における学習活動を展開できるように、既存事業の見直しを図り、地域の現状や特性に合わせた講座等の開設と情報の提供を行い、各種講座や文化・サークル活動等に気軽に参画できる諸条件の整備に

努め、町民の学習意欲向上への対応を図ります。

また、関係機関・団体との連携及び指導者の育成と人材の確保を含めた社会教育団体・サークルの育成強化、施設の整備に努め、多様な学習ニーズに対応できる体制づくりに努めます。

(5) 学校給食

利尻富士町との共同調理場である利尻郡学校給食組合及びPTAとの連携強化と、共同調理運営委員会の充実を図り、衛生管理に十分配慮し、食中毒などの事故防止に万全を尽くすとともに、成長期にある児童生徒の栄養バランスを勘案し、魅力ある学校給食の供給に務め、健康の増進と体位の向上を図ります。

また、共同調理場の施設や設備、機器類の計画的整備を進めながら、「地域の味」や「旬の味」などの郷土料理をメニューに加え、地場産品の給食取り入れについても検討してまいります。

(6) スポーツ

高齢化が進行するなか、人生観の変化や生活水準の向上、さ

らには、自由時間の増加とも相まって、心身ともに健康で豊かな充実した人生を送りたいという気運の高まりから、スポーツ活動の重要性が一層認識されてきており、町民の誰もが気軽に参加できるように、軽スポーツの普及を図るとともに、スポーツ・レクリエーション施設の整備、各種教室やスポーツ大会の開催によるスポーツの振興を図り、さらには、研修会の開催、指導者の育成、人材確保など、多様化するスポーツ・レクリエーションの動向に応じた指導体制の充実を図り、体育・スポーツ団体等の育成・支援にも努めます。

(7) 文化

町民の生活にゆとりと潤いをもたらす芸術・文化活動への支援や、各種公演・鑑賞の機会の提供など町民の豊かな心の醸成に努めるとともに、文化・芸術活動の普及と推進を図るため、活動の拠点となる施設の整備を図ります。

また、郷土の歴史と郷土愛の

認識を深め、次世代に継承していくための貴重な地域文化や文化財の調査・収集と保護・保存に努めます。



(8) 博物館

利尻町立博物館は、管内で唯一の博物館として地域の歴史・文化の中核となる施設であり、さらには、学校教育や生涯教育、社会教育の推進の一端を担う施設でもあり、貴重な遺跡や文化財の収集・保存・公開を行っております。

また、当館では、利尻の歴史・自然に関わるさまざまな分野の調査研究に取り組んでおり、今後もこれら調査・研究の充実に努め、遺跡や文化財等とともに積極的に町民に情報公開し、町民の学習の場としての施設機能の充実に努めます。

施設整備については、老朽化と狭隘から十分な博物館機能が生かされていない状況にあることから、改修整備について検討してまいります。

域づくり団体の活動の支援に努めます。

また、行政への町民参加を積極的に進め、町民が自主的に行動しやすい環境づくりの推進と公報公聴機能の充実強化に努め、さらに、地域活動の拠点となる施設の有効活用と必要な施設の整備に努めます。

(2) 国内・国際交流

さまざまな形の交流や学習機会の充実に努め、国際感覚を高める環境づくりに努めるとともに、語学指導のための人材招致や留学生の受け入れなど柔軟に対応できる体制づくりに努めます。

また、本町の特性を生かし、主産業である漁業や観光などの情報発信を行い、共通目的を持った継続的に幅広く交流できる自治体間交流などの推進に努めます。

(3) 定住促進

定住の促進を図るためには、定住の基礎となる漁業の振興が最重要課題であり、今後も基幹

産業である漁業の振興対策を重点的に推進し、併せて経済環境・雇用対策に努めるとともに、快適な居住環境の整備に努めます。

また、家庭や地域、学校が一体となって、地域や地域産業に対する愛着を生むための取り組みも推進します。

(4) 行政運営

国と地方との役割を明確化し、地方自治体の自主性、主体性を尊重した地域づくりの推進を目的とした地方分権の時代を迎えようとしている今日、本町においても利尻町行政改革推進計画を柱として行政事務の効率化と近代化を図るとともに、多様な行政需要に即応できる執行体制の確立と職員の資質の向上に努めます。

また、情報化の推進による行政サービスの向上を図るため、OA機器の導入を推進し、行政ネットワークの構築など迅速で効率的な事務の執行に努めます。

(5) 財政

財政の健全化を維持していくため、財源の確保と効率性かつ計画的な執行に努めるとともに、長期的な展望に立ち、効率的、効果的に財政投資を行うとともに、一層事務事業の見直しと合理化を進め、行政コストの低減を図るなど、経済環境の変化に柔軟に対応できる財政基盤の確立に努めます。

(6) 広域行政

社会情勢の進展により行政需要はますます高度化、多様化してきており、行政組織の近代化、効率の向上などを一体化とした総合的な広域行政の推進が必要となってきており、今後も関係市町村及び関係機関との連携強化を図りながら、各自治体の地域特性を生かした機能分担などによる効率的な推進に努めます。

第5章

みんなでつくる明るい未来 を感じるふるさとづくり

(1) 地域活動

時代の変化に応じた地域活動

のあり方を検討するとともに、自治会組織の活性化を図り、地

町づくり住民アンケート

「町づくり住民アンケート」は、町づくり計画策定に当たり、本町の問題点や将来方向について町民の皆さんの考えや意見をお聞かせいただき、町づくりへ反映していくため実施しました。

●対象者 1,359世帯 ●回答数 408世帯 ●回答率 30.02% ●回答方法 自治会回収・郵送

設問1・2・3 回答者について

回答者の年齢構成は、61—70歳代が回答者の四分の一をしめる世代でした。41歳から80歳までの回答者数は309人で75.8%の高い回答率でした。町づくりの中心となる世代の強い関心があることがわかります。

性別では男性が64%、女性は26%でした。

職業では漁業が35.5%で圧倒的に高い回答率でした。家族構成では夫婦であったのが246人54.1%で、いわゆる核家族化している現状が浮き出てきます。

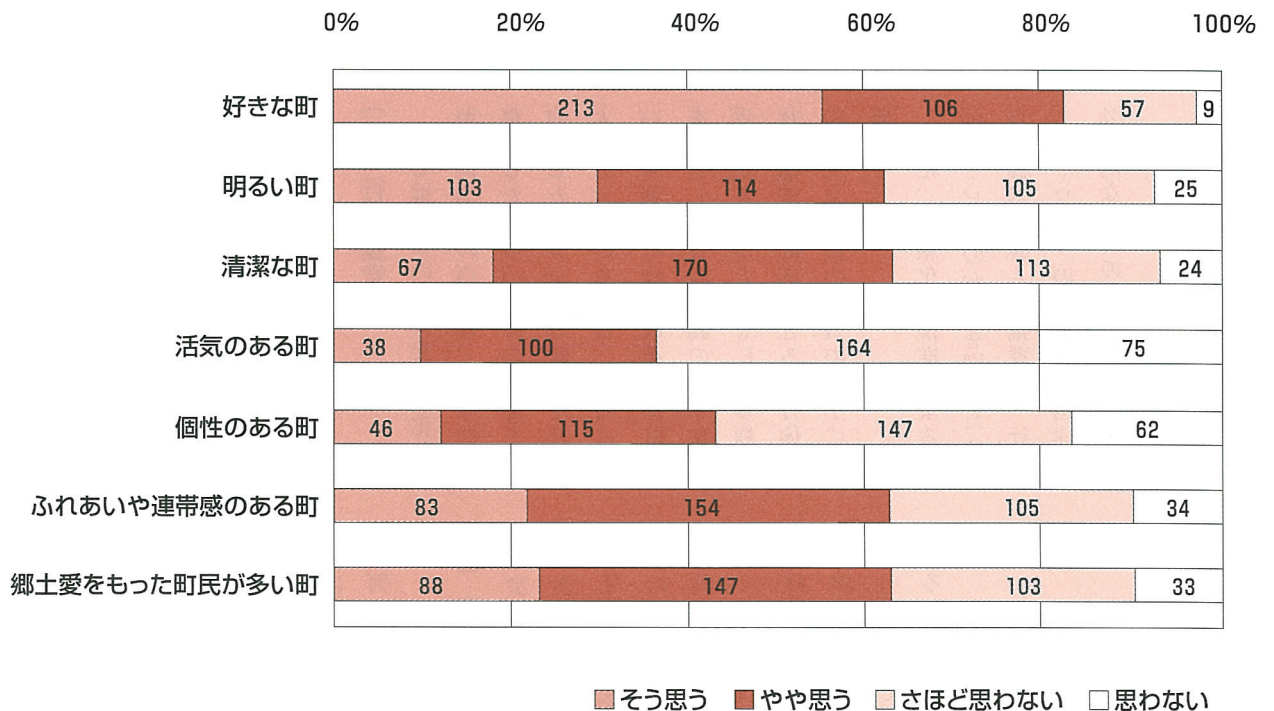
設問4 いつ頃から利尻町に住んでいるの

回答者の大部分196人60.9%は生まれてから利尻町に住んでいる方です。故郷利尻の方が圧倒的に多い回答でした。

設問5 利尻町に対しての意識

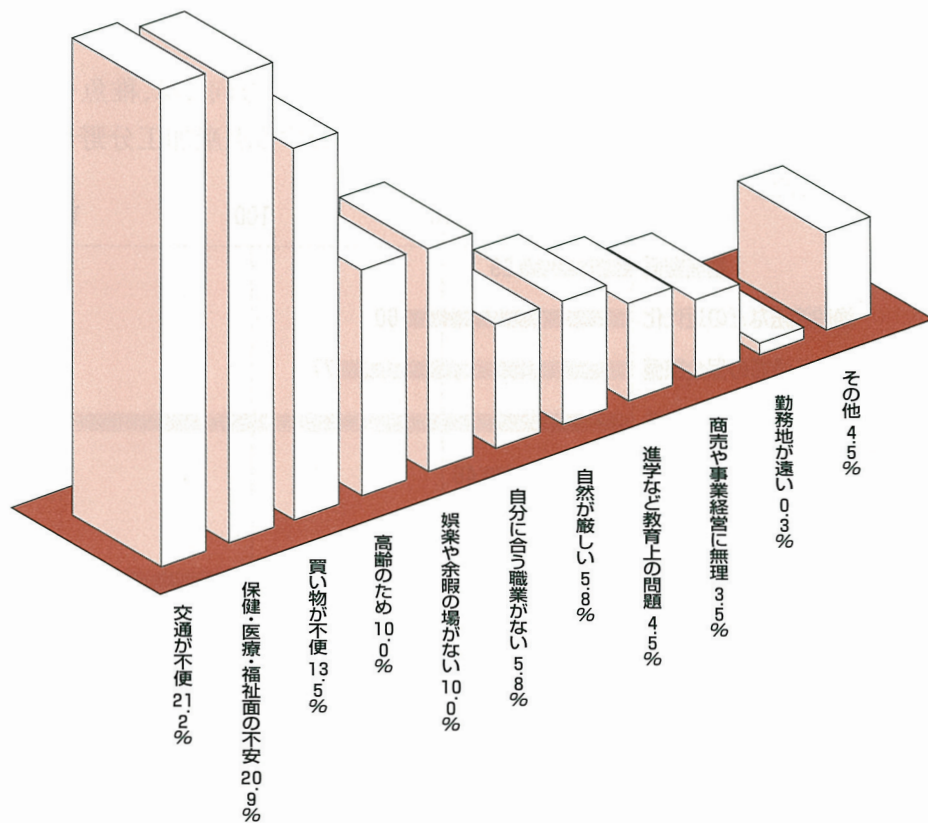
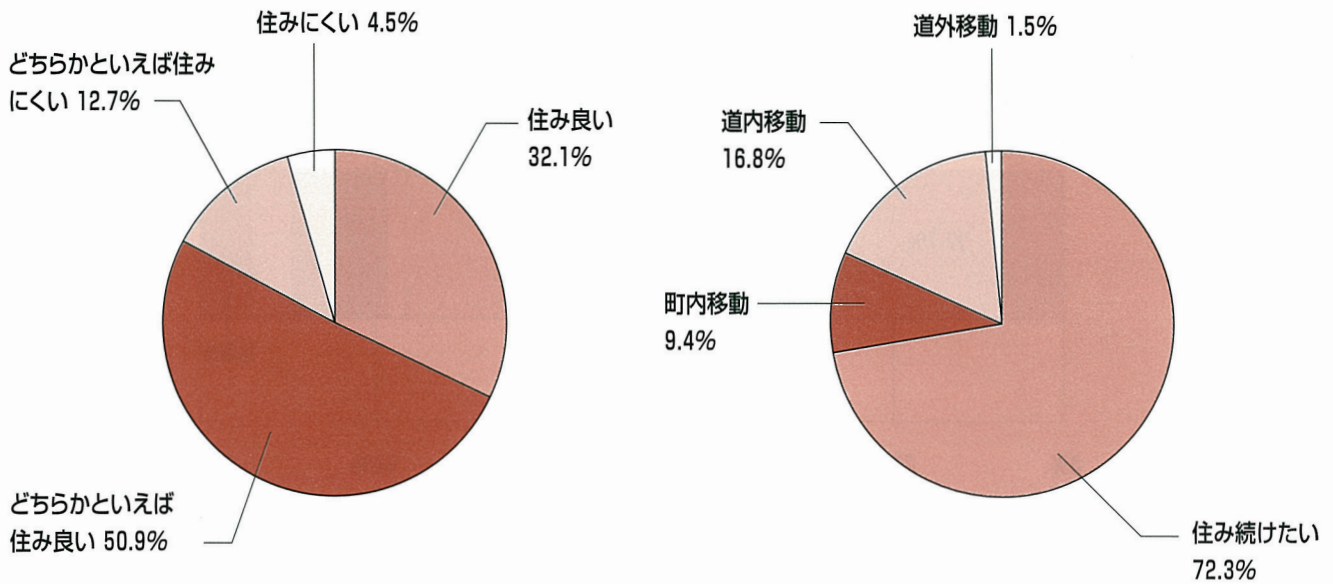
利尻町をどのように思っているかのアンケートでは好きな町と答えた方が16%で、あとは14%でした。利尻町の印象(イメージ)については、多くの町民が強い関心をもっていることがわかりました。

反面、好きな町・明るい町・清潔な町・ふれあいや連帯感のある町・郷土愛をもった町民が多い町の設問で「そう思う」「やや思う」と答えた方は60%以上を越えています。活気のある町・個性のある町では「さほど思わない」が40~43%を示しました。



設問6・7・8 利尻町は住みよい町ですか

現在の住みやすさについて「住みやすい」「どちらかといえば住み良い」と答えた方が83%でした。また、このまま利尻町に住み続けたいと答えた方は72.3%でした。何らかの理由で利尻町を離れることを考えている答えでは、交通が不便であること、保健・医療・福祉面への不安が大きな要素でした。

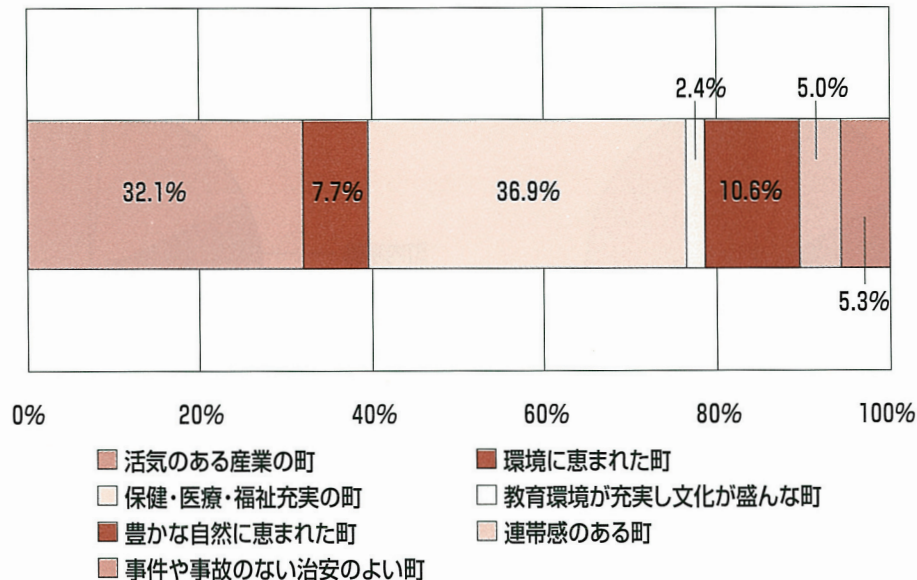


設問9・10・11 未来の利尻町の課題

未来の利尻町のあり方についてもっとも多かった希望は「活気のある産業の町」で「保健・医療・福祉が充実し健康的で安心して暮らせる町」でした。

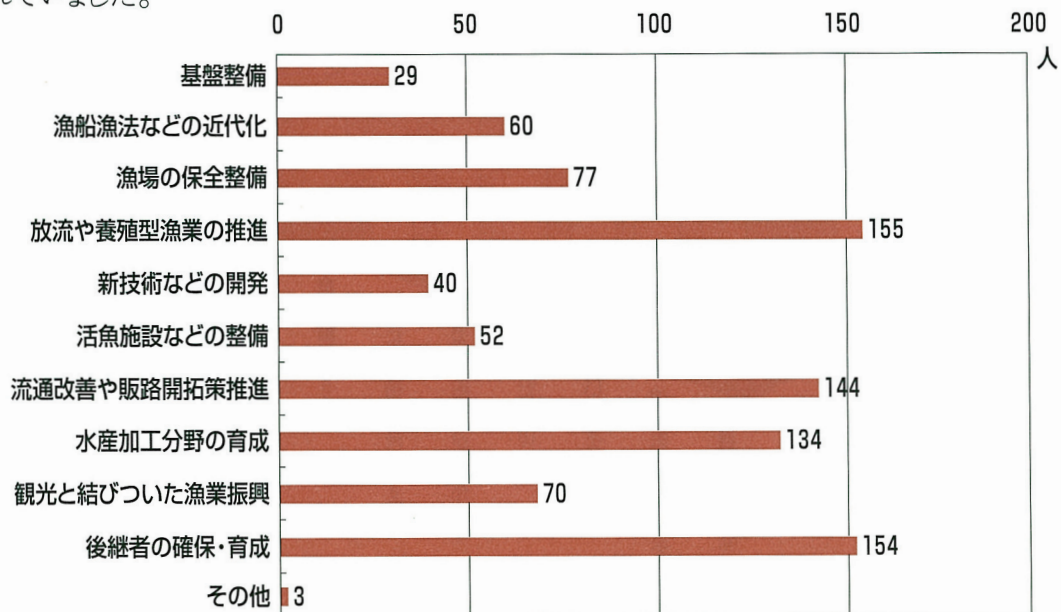
取り組むべき町づくりの課題として多かったのは産業の振興・雇用の場の拡大が14.4%、保健（健康づくり）・医療対策12.3%、高齢化対策10.4%でした。

また、利尻町の経済を支える地域産業の振興方向については生産性の高い水産業の育成が最も多く34.4%、次いで農林水産業など地域の資源を活用した加工業の育成が21.6%でした。さらに、雇用の場の拡大に結びつく企業誘致、観光開発・観光関連産業の育成が18.8%、14.9%でした。



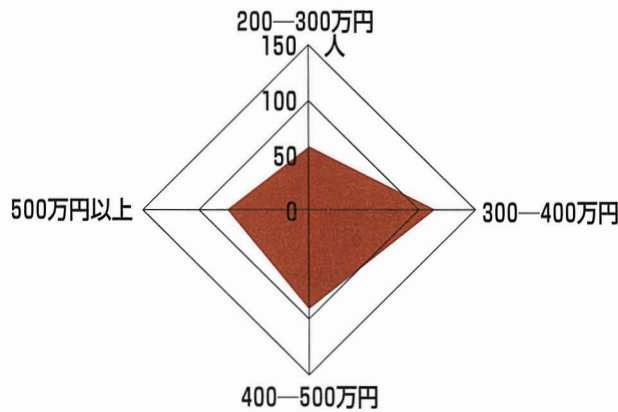
設問12 水産業の振興方向について

利尻町の産業経済についてもっとも期待の高い水産業の振興方向では、稚魚・稚貝の放流、流通改善や販路開拓・直販事業など流通販売対策の推進、漁業と相互振興する水産加工分野の育成、後継者の確保・育成が高く望まれていました。



設問13 漁家経営安定のための所得

漁船・漁場及び養殖事業以外の根付漁業での安定的な年間所得金額が多かったのは300～400万円でした。

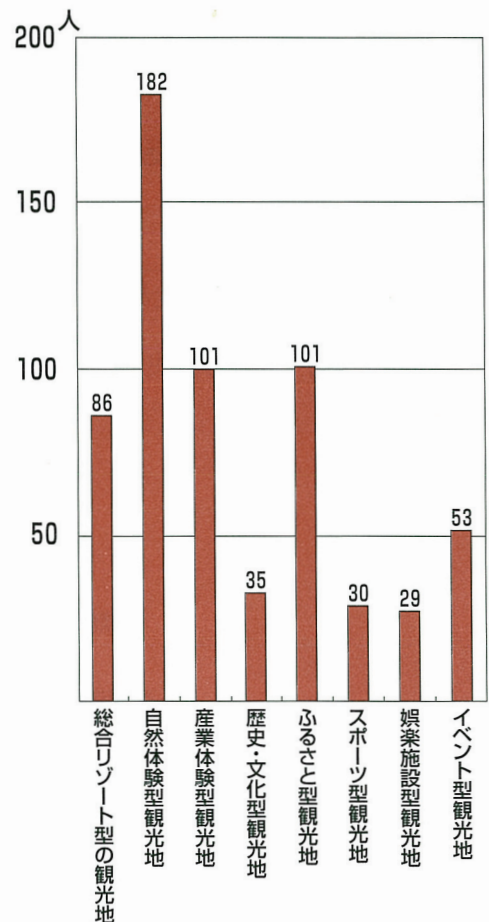
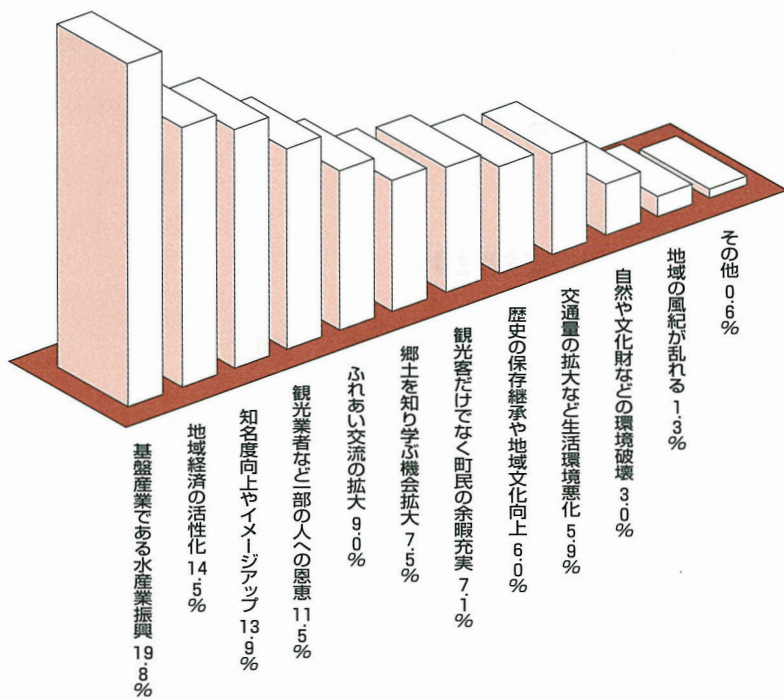


設問14・15 農林業・商業振興方向

農林業振興では観光と結びついた農林業の振興が、商業振興では地元でとれる新鮮な農林水産業や特産品を買いやすくすることがもっとも高い希望でした。

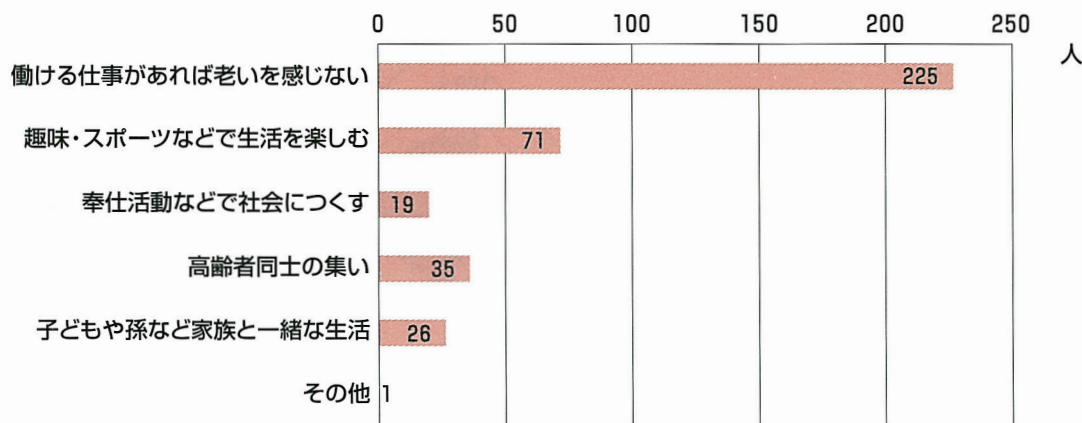
設問16・17 観光振興方向

観光振興に対して町民の考えは基盤産業である水産業の振興に繋がるであろうということを積極的に意識していますが、観光振興対策としては自然や景観を素材とした自然体験型観光地であることを希望しています。



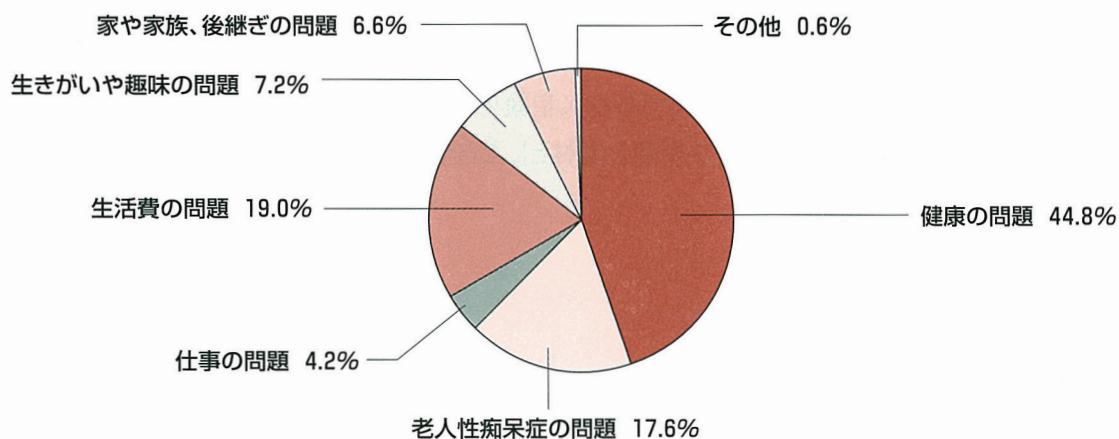
設問18 老後の生きがい

「老後の生きがい」については、高齢者でもできる仕事があれば、働ける間は働き、老いを感じさせないと答えた方は59.7%でした。



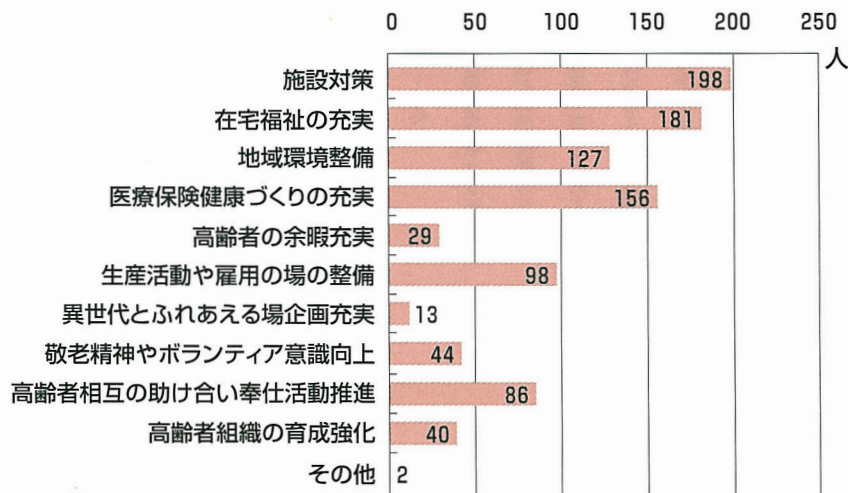
設問19 老後への不安(複数回答)

老後への不安は健康の問題が44.8%でもっとも高い回答が寄せられています。



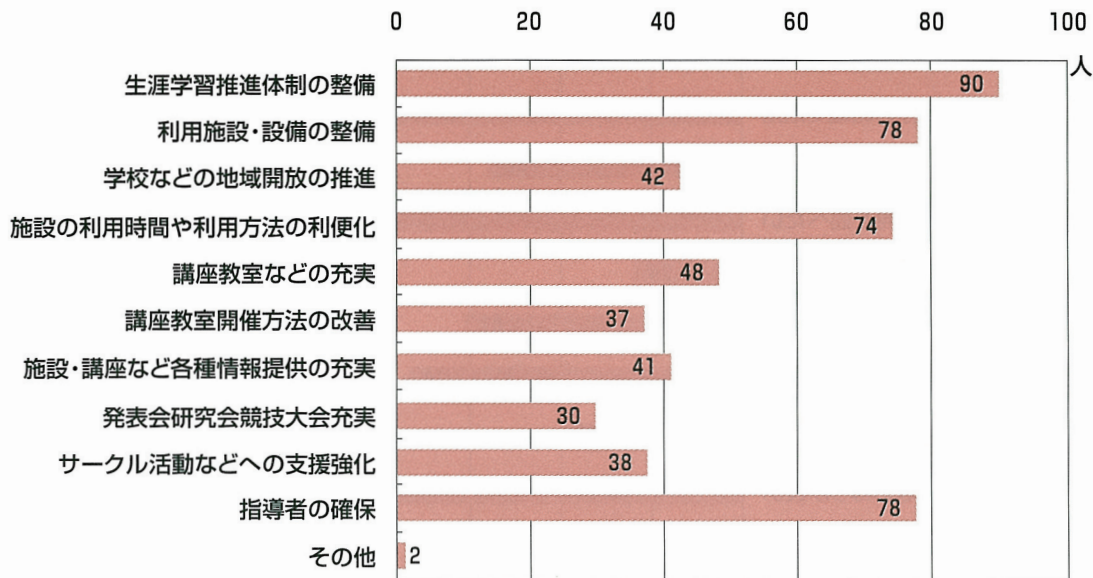
設問20 老後を送るための町づくり

健康で生きがいをもち充実した老後を送るためには施設対策が望まれます。



設問21 生涯学習活動を促進するために重要な対策（複数回答）

生涯活動を促進するために重要だと思う対策として、生涯学習体制の整備が16.1%でもっとも高く、次いで利用施設・設備の整備や指導者の確保がそれぞれ14.0%でした。さらに講座教室などの開催時間や開催場所などの改善要求が13.3%でした。

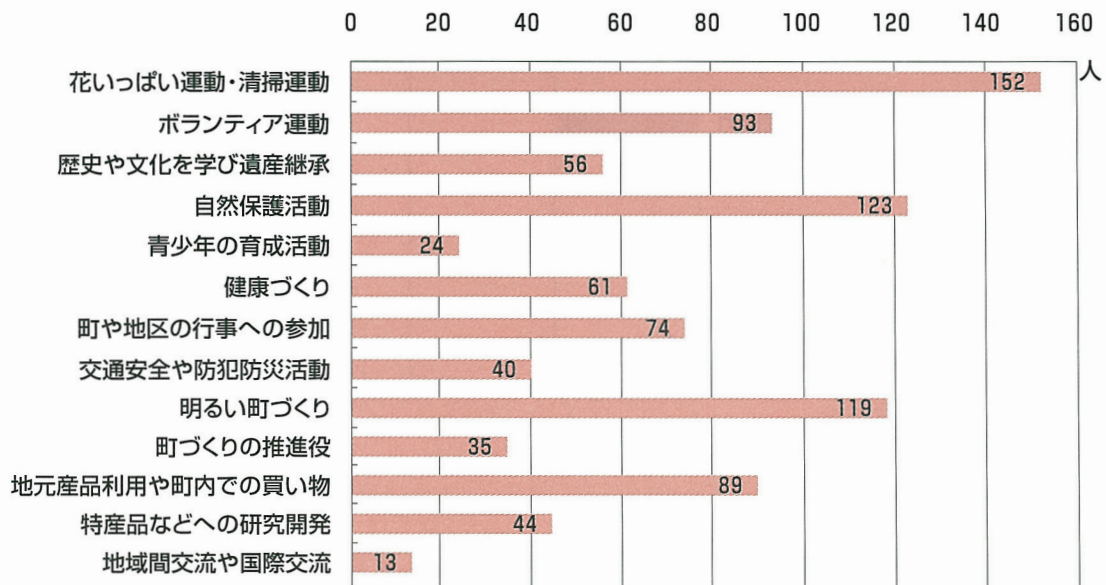


設問22 地域活動行事への参加状況

自治会や婦人会、老人クラブなどの地域の活動や行動にどの程度参加しているのかの質問には「ほとんど参加していない」が40%でした。

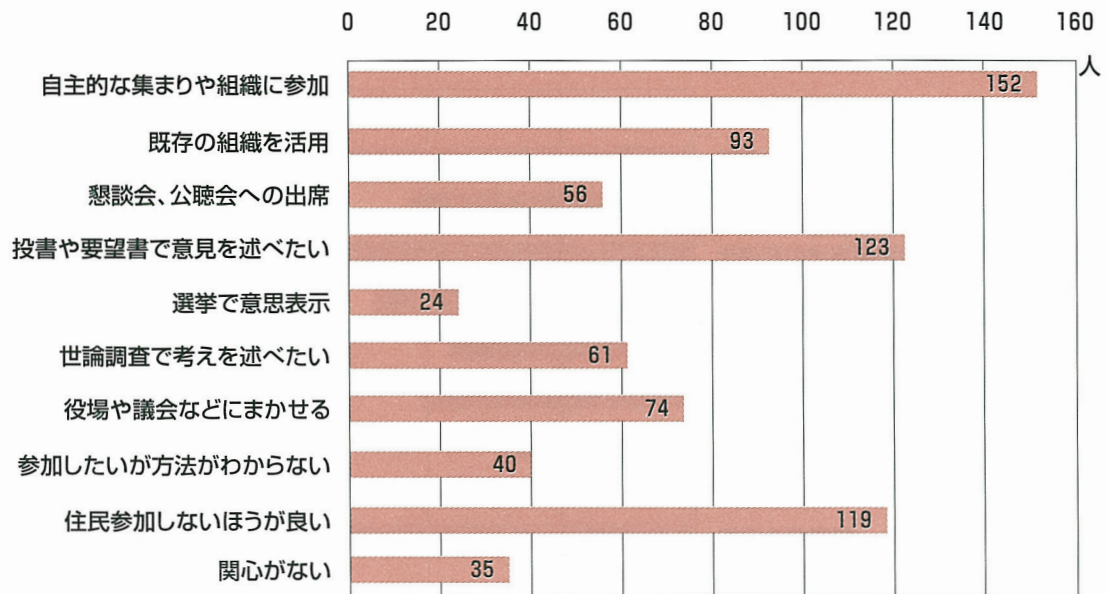
設問23 住み良い「まちづくり」を進めるための町民の主体的な活動（複数回答）

美しい町をつくるため、花いっぱい運動や清掃活動に参加することがもっとも多く16.5%でした。次いで自然保護活動への参加が13.3%、明るい町づくりへの参加が12.9%でした。



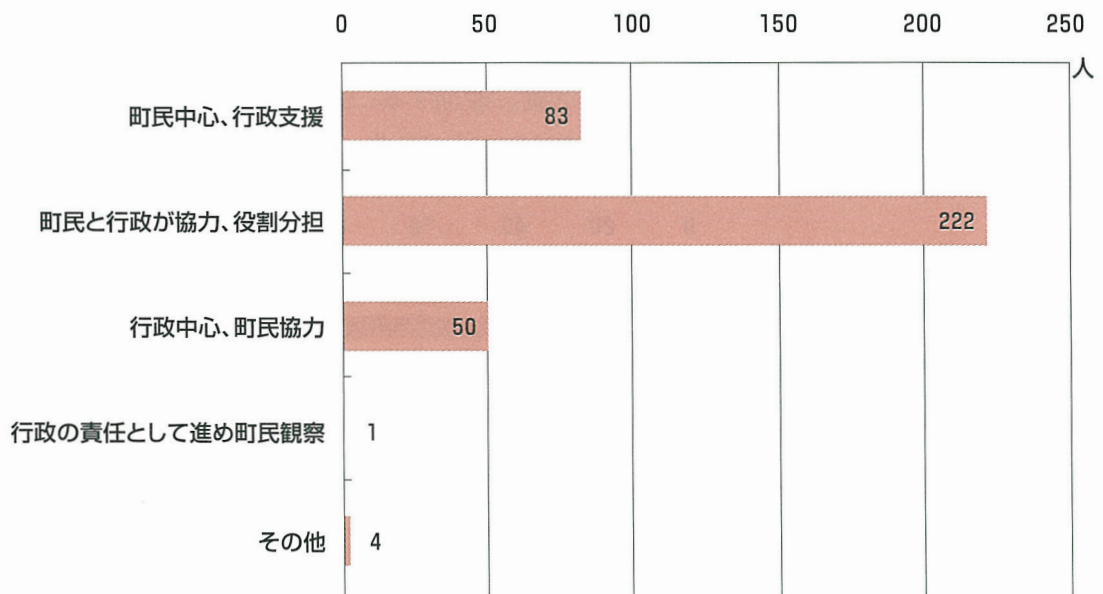
設問24 町政(町づくり)への参加方法(複数回答)

町づくりへの参加は自主的な集まりや組織に参加したいが19.6%で、投書や要望書の提出などで意見を述べたいが15.8%であったのに対し、住民参加しない方がよいと答えた方が15.3%いるなど、町づくりへの参加は大きく分かれています。



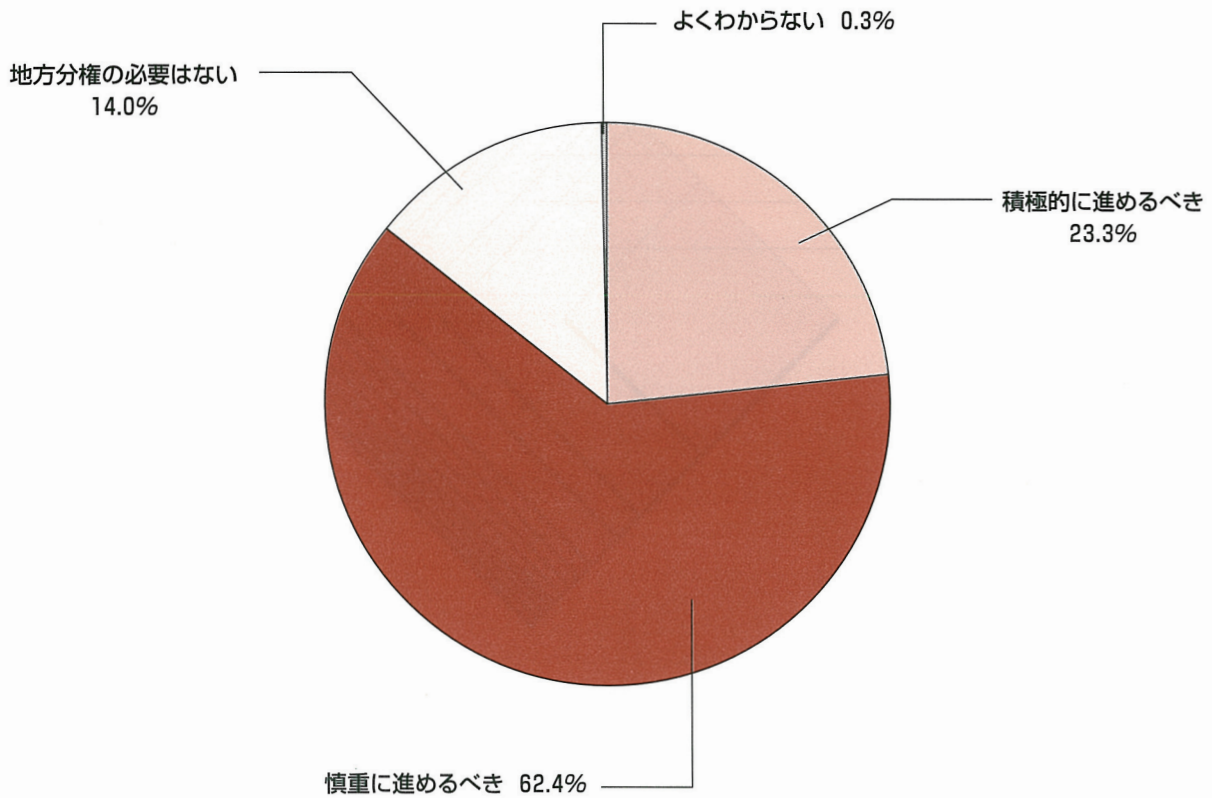
設問25 町政と行政の役割分担について

今後の町づくりを進める上で、「町民」と「行政」が協力しあったり、それぞれの役割を分担して町づくりを進めるべきであると考えている方は61.7%で、ほとんどの方が「町民」と「行政」の連携を考えています。



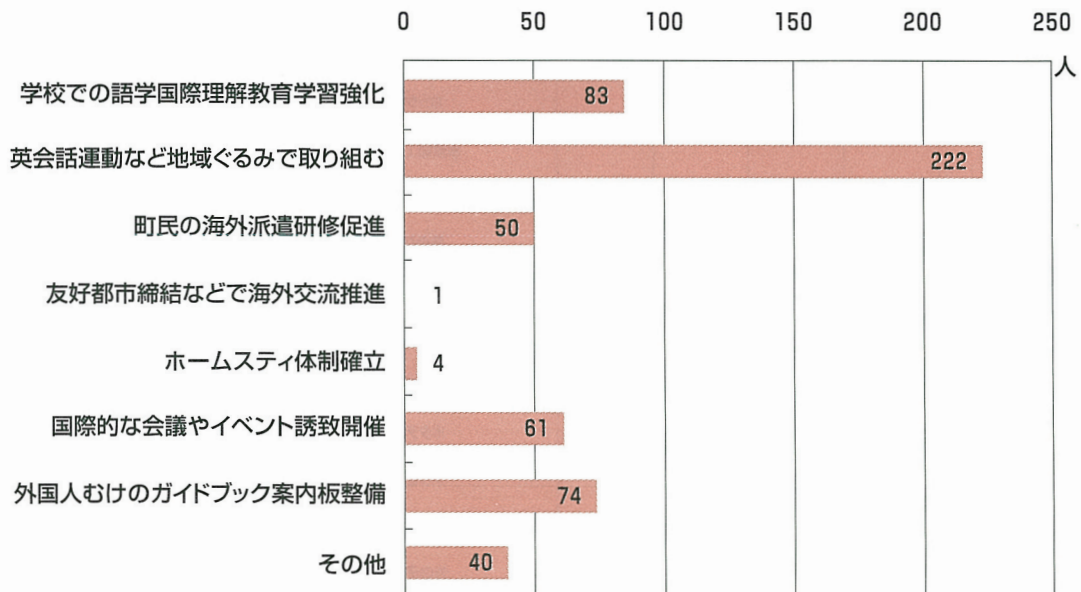
設問26 地方分権についての考え

地方分権についての考えは、慎重に進めるべきであると答えた方が62.4%と圧倒的でした。



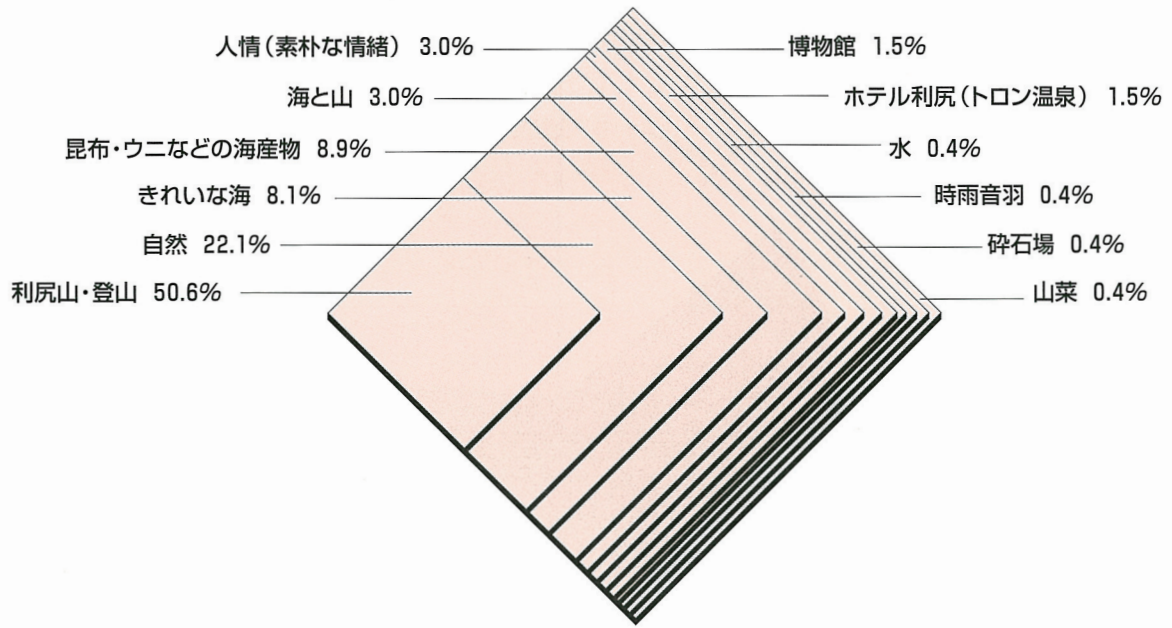
設問27 国際化の推進について

国際化推進については、英会話運動など地域ぐるみで外国語の学習に取り組むと答えた方が41.5%でした。学校での語学や国際理解のための学習要求など具体的な国際交流よりも国際交流するための事前学習に取り組むべきであるとの回答が多くありました。



設問28 郷土の宝・お客さんを案内する場所・お土産として利用するもの

郷土の宝としては豊かな自然ときれいな海に囲まれた利尻島・利尻山と中央にそびえ立つ利尻山への登山でした。



お客さんを案内する場所としては利尻山の中腹にある見返り台園地と利尻町の南海岸にある御崎公園(自然水族館)でした。

土産として利用するものでは利尻昆布・ウニ・ウニ加工品・とろろ昆布が選ばれました。

